

疑似体験で店舗経営学ぶ 重要なコストコントロール

立川美夏子氏が講演

今年第2回目となる「女性活躍推進フォーラムin九州」が10月18日、福岡県博多区の福岡県遊技会館で開催され、日遊協会員企業7社11人の女性社員が実務講座の受講やグループディスカッションを行った。

今年度の「女性活躍推進フォーラムin九州」は、昨年度同様年間3回開催され、キャリアアップ、スキルアップを目指した研修や、全3回の通しテーマで企画立案するグループディスカッションが行われる。グループディスカッションの内容は、12月13日に予定されているフォーラムの最終日に発表することが決まっており、さらに、その企画を参加者が各自、自社に持ち帰り業務などに反映させることを最終的な目標としている。

第1部のセミナーではエンタテインメントビジネス総合研究所の

立川美夏

子氏が「1カ月店長体験セミナー」と題して講演。



講師を務めた立川美夏子氏▶

架空のパチンコホールの店長となった参加者が、投資と経費のバランスをコントロールしながらホール経営を疑似体験するという内容で、「遊技台数600台（パチンコ400、パチスロ200）」「郊外店」「新台導入や宣伝など、何もしなければ稼働率が日ごとに2%ダウンする」などの条件設定のなか、いかにして利益を最大化するか戦略をたてた。

このなかで立川氏は、店舗の儲けが伸びる仕組みについてコストコントロールの重要性を強調。パチンコ店の3大コストとして「遊技機購入費用（新台人替など）」「広告宣伝費（ちらし、LINEな

参加者は3つのグループわかれてディスカッションを行った



ど)」「人件費(社員、アルバイト、派遣スタッフ)」を挙げ、黒字であるためには売上を上げると同時にこれらのコストを削減していかなくてはならないと強調した。

また1日あたりの台粗利、遊技機設置台数、通常稼働率、月間固定費などの条件設定に加え、新台入替が月2回、広告宣伝費でチラシに30万円かけると稼働率が5%上がる、など多くの変動要因を絡めて経営シミュレーションを行い、バランスの良い営業とはどういったものかを学んだ。

企画立案作業も進む

フォーラム後半ではグループディスカッションを実施。3つのグループが「キャリアプランニング

グ」をテーマに、どうすれば女性が輝ける職場を生み出せるかを討議した。

3グループの企画はそれぞれ「選択制勤務の導入」(Aグループ)、「パチンコ業界の環境改善」(Bグループ)、「只今社員活性中!」(私の夢の会社の未来) (Cグループ)というもの。働く側の都合に合わせてられるよう働き方の選択肢を増やす提案や、スキルアップ研修を積極的に開催することで自分の能力を向上させるなど、テーマを深掘りして企画を練り込む作業を行った。

またフォーラム終了後には、参加者の懇親を深めるための親睦会も開催された。

人材育成委員会

10月12日
本部会議室
出席委員等10人

先輩女性社員に講師依頼

11・21東京フォーラム

ついて話し合った。

9月13日に都内中央区日本橋で開催された「女性活躍推進フォーラムin東京」と7月に福岡県博多で行われた「同in九州」の総括、11月21日に開催される「第16回人材育成フォーラム」の構成などに

東京、九州でのフォーラムの総括では、グループに分かれて行われたディスカッションの内容や方向性、企画案の実現性について、議事録とそれぞれの議論にオブザー



女性活躍推進フォーラムの総括がおこなわれた人材育成委員会

バーとして参加した委員の所感を交えて、話の流れを精査した。

グループディスカッションは、東京は年4回、九州は年3回を1チームとするフォーラムにおいて、通しテーマで話し合い、最終回には所属企業の上長らを前にプレゼンするという企画。東京では「キャリアアッププランニング」か「ワークライフバランス」を、九州では「キャリアアッププランニング」を選択し、課題解決のための実現可能なアイデアを練り上げる。

委員からは「話の流れが停滞したり、逆に議論が活発でも方向性に現実味が乏しかったりという部分が感じられた」という見方や、

「ワークライフバランスの意味合いをもう一度説明する必要があるのではないか」「このまま様子見を続けて議論がブレないように方向の微調整を行う程度でよい」などさまざまな感想が寄せられた。

フォーラムに関してはこの他に、東京の次回(11月21日)において企画されている「業界先輩社員登壇」の講師人選や、委員会の開催スケジュールなどが話し合われた。来季の人材育成委員会主催事業については、人事分野で先進的な取組を行っている企業を取材して広報誌に掲載する案、他業界において離職した人に対し、パチンコ業界の良さをアピールして業界への理解を深めてもらい就職口の一つとして検討してもらおう試みなどがアイデアとして挙げられた。また、2016年まで行っていた新卒就活者向けの合同企業説明会への出展についても「出展時にはブースに多くの学生が訪れてくれたし、業界説明聴講後にとったアンケートも、『最初はとてもイメージが悪かったが、話をきくと大きく異なっていた』という意見も多かった」など、出展再開意義の大きさを評価する声が上がった。